

**‘万人のための教育’（2000を目標年次とした教育開発計画）で
掲げられた目標とその達成度合の評価**

1) 初等教育の普及：1991-2000

目標	実績	達成度評価
都市部とデルタ部において、15才以下の子供の、初等教育（第5学年まであり）の修了率を90%以上にする。また、残りの10%の子供たちも少なくとも第3学年までは修了させる。	2000年の初等教育の修了率は、全国で93.95%、ハノイ99.85%、ハノイを含む黄河デルタ全体で、97.96%、ホーチミン98.22%、ホーチミンを含むメコンデルタ全体で、98.56%。目標は達成されたと言える。	達成
山岳部と少数民族地域において、15才以下の子供の第3学年まで修了率を90%以上にする。	山岳部と少数民族地域において、15才以下の子供の第3学年までの修了率は90%以上となっている。目標は達成されたと言える。	達成
中退、復帰を繰り返す子供の率を現行の10%から5%に下げる。	1999 2000年は、2.79% となっている。 目標は達成された。	達成
各学年の中退率を現行の12%から6%に下げる。	1999-2000 は、4.67% まで下がった。目標は達成された。	達成
卒業率（＝修了率）を現行50%から70%に向上させる。	5年前の第一学年の生徒数と、昨年の卒業者数の比率は 70.88%(in 1999-2000) となった。目標は達成された。	達成
小学生の数を、1,100万人に増やす。	小学校の生徒数は、975.1万人となった。これは、急激な出生率の低下が原因である。	未達成

上記の目標を達成するため、以下のような施策を実施する。

目標	実績	達成度評価
現在、校舎の不足から、午前、午後、夕方の3交代制で授業を受けさせているが、小学校建設・改修により、その比率を1.5まで改善する。	これに関する評価報告書は作成されていない。	不明
全ての生徒に教科書などの教材を供与するとともに、教育方法を改善する。	これは改善した。新しいカリキュラムのもとで、教科書は子供たちに配付されている。	進捗している
教員資格を持つ教師の比率を70%まで上げる。	基準に達した教師の比率は、78.5%（2000-2001）である。	達成
少数民族のための自治学校を建設する。	現在、 344の少数民族の自治学校がある。 - 9つの学校は、中央が運営する学校（建設済み） - 41の学校は、省が運営する学校（39校が建設済み） -190は地区レベルが運営する学校(77校が建設済み) -104がコミュニティ（村）が運営する学校（39校が完成済み）	進捗している

2) 非識字解消のための教育(1991-2000)

目標	実績	達成度評価
95年までに、15才から35才の非識字人口を2百万人から百万人に半減させる。	非識字人口は、110.8百万人に減少した。（1999）	ほぼ達成
国の公式の非識字率を、現行の12%から、2000年に6%まで下げる。	公式な数字はまだないが 2005年までにさらに4%に下げる予定。	不明
毎年、非識字人口を25万人ずつ削減するため、識字教育プログラムを実施する。	4年間で、百万人の人たちに識字教育が施された。	実施中
識字に成功した人たちのための、初等教育レベルの教科書と教育プログラムを開発する。	積極的な取組みがなされている。	実施中

3) 教育・訓練のためのインフラ整備・改修のための長期プロジェクトの実施（1991 2000）

目標	実績	達成度評価
初等教育施設の整備が進むことにより、児童が現行の910万人から1,100万人に増える。	-生徒は 970万人に増加したが、急激な出生率の低下が原因でそれほど増えていない。 -教育施設は、継続的に改善されてきた。 + 3交代制の授業の必要性が減った。 + 校舎が整備された。 -少なくとも4学年分の教室を備える学校の比率は、84% となった。	未達成。 施設整備は進捗している。
同じように、中学校の生徒（第6～9学年）の数が、280万人から350万人に増加する。具体的に必要な学校数と教室数は特定されていないが、必要な予算が配分されるべき。	-中学校の生徒数は、598万人に達している。 1991年時に比べて約2倍の生徒を受入れるだけの施設が十分ではない。	大幅に達成。付随して緊急な対応が必要。

出所）Education for All 2000の文書と、教育省の回答による。